ルカ 19:41-48「地上の都、天の都」

聖句

「エルサレムに近づき、都が見えたとき、イエスはその都のために泣いて、言われた。「もしこの日に、お前も平和への道をわきまえていたなら・・・。しかし今は、それがお前には見えない。やがて時が来て、敵が周りに堡塁を築き、お前を取り巻いて四方から攻め寄せ、お前とそこにいるお前の子らを地にたたきつけ、お前の中の石を残らず崩してしまうだろう。それは、神の訪れてくださる時をわきまえなかったからである。それから、イエスは神殿の境内に入り、そこで商売をしていた人々を追い出し始めて、彼らに言われた。「こう書いてある。『わたしの家は、祈りの家でなければならない』　ところが、あなたたちはそれを強盗の巣にした」　毎日、イエスは境内で教えておられた。祭司長、律法学者、民の指導者たちは、イエスを殺そうと謀ったが、どうすることもできなかった。民衆が皆、夢中になってイエスの話に聞き入っていたからである」

旧約聖書の詩編の中に「都もうでの歌」がおさめられています。神の都と呼ばれたエルサレムは、周りを山に取り囲まれていました。都をもうでる人々が最後にひかえている峠を越えると、眼下にまばゆい黄金色に輝く都が現れたのです。それを見て人々は喜びの叫びを上げました。その喜びの叫びが、詩編の中におさめられているのです。

誰しもが、神の都エルサレムが永遠に栄えることを願い、そう信じました。しかし、主イエスキリストは、エルサレムが跡形もなく滅ぼされるであろう、と明言なさったのです。これは、非常に衝撃的な言葉であり、また、非常に恐ろしい言葉でもありました。なぜなら、主イエスがエルサレムの滅亡を予告なさってから約 40 年を経た西暦 70 年に、エルサレムはローマ第十軍団の攻撃によって、文字通り跡形もなく滅ぼされてしまったからです。

都とは、わたしたち人間の生活の中心をなしているものです。エルサレムには、神を礼拝する神殿がありました。国を治める王の王宮がありました。治安を維持する軍隊の兵営がありました。食料を供給する市場がありました。人々の生活の場所である住宅がありました。

わたしたち人間の精神的生活と物質的生活を保障し、成り立たせているもの。それが都であります。

しかし、主イエスキリストは、地上にある都は、はかなくも過ぎ去り、滅び去って行くということを、今日の聖書を通して、わたしたちに語っておられます。

地上の都であるエルサレムには、神を礼拝する神殿がありました。人々は、そこで、神を礼拝していました。しかし、そうであってなお、人々の心が本当に神と結ばれているわけではない、という状況があったのです。

地上の都であるエルサレムには、国を治める王宮がありました。人々は、王の統治のもとで生活していました。しかし、そうであってなお、人々の心が、また、王の心が、本当に神と結ばれているわけではない、という状況があったのです。

地上の都であるエルサレムには、治安を維持する軍隊の兵営がありました。人々は、それにより、社会の秩序と安寧を保障されていました。しかし、そうであってなお、人々の心が、本当に神と結ばれているわけではない、という状況があったのです。

地上の都であるエルサレムには、食料を供給する市場がありました。人々は、日々の食事に満ち足りていました。しかし、そうであってなお、人々の心が本当に神と結ばれているわけではない、という状況があったのです。

地上の都であるエルサレムには、人々の生活する住宅がありました。人々は、自分の家で快適に過ごし、くつろぐことができました。しかし、そうであってなお、人々の心が、本当に神と結ばれているわけではない、という状況があったのです。

地上の都は滅び去る、主イエスキリストが言われる時、それは、わたしたちにとって何が本質的に重要なことなのかをよく考えてみるように、と問いかけておられるのです。

主イエスキリストはおっしゃいました。「わたしは道であり真理であり命である」　主イエスキリストを通して、わたしたちはまことの神と本当に結ばれることができます。そうして、主イエスキリストを通して与えられるまことの神との関係こそが、永遠に残り続ける、わたしたちにとって本質的に重要なことなのです。

主イエスキリストを通して与えられるまことの神との関係。聖書はこれを、信仰、希望、愛と呼んでいます。パウロは、主イエスキリストを通してわたしたちに与えられる信仰と希望と愛について、コリントの信徒への手紙一の中で、このように宣言しています。

「愛は決して滅びない。預言は廃れ、異言はやみ、知識はすたれよう、わたしたちの知識は一部分、預言も一部分だから。完全なものが来たときには、部分的なものは廃れよう・・・・・・。それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である」（コリント一 13:8-9，13 ）

わたしたちは今日という日を地上の都の中で生活しています。わたしたちは地上の都において満ち足りています。しかし、主イエスの問いかけに耳を傾けましょう。わたしたちにとって本質的に重要なこと。わたしたちにとって永遠に存続するもの。それは、主イエスキリストを通して与えられるまことの神との関係です。それは、主イエスキリストを通して与えられる信仰と希望と愛です。

エルサレムに住んでいた人々は、西暦 70 年に、地上の都が滅び去るという悲しみを味あわなければなりませんでした。しかし、地上の都が滅び去る悲しみを経験したのは、エルサレムの人々ばかりではありませんでした。人間の歴史において、多くの都が滅び去り、多くの人々がその悲しみを味わって来たのです。

滅び去った都の名前をここですべて挙げるならば、いくら時間があっても足りないでしょう。ごくわずかを挙げるとするならば、五年間にわたる日本軍の爆撃で破壊された中国の重慶。連合軍の連夜の猛爆撃によって跡形もなくなってしまったドイツのドレスデン。B29 が投下するナパーム弾によって焼き尽くされてしまった東京。原子爆弾によって一瞬のうちに消え去ってしまった広島と長崎。わたしたちの心には、これら滅び去った都の名前が、悲しみと痛みを伴って思い起こされます。

言葉に言い尽くすことのできない悲しみと痛みを伴って、地上の都は滅び去って行くのです。しかし、地上の都が滅び去ったとしても、決して滅びないもの、決してなくならないもの、いつまでも存続するものがある、とわたしたちは言われています。それは、信仰と希望と愛です。それは、主イエスキリストを通して与えられるまことの神との結びつきです。

この信仰と希望と愛にしっかり立つときに、わたしたちは、滅び去って行く地上の都を後にして、天にある永遠の都、新しいエルサレムに向かって、進んで行くことができるのです。地上の都と対比される天の都。それは、わたしたちと神との心の結びつきを絵画的に表現したものであり、新しいエルサレムと呼ばれています。新約聖書は、やがて新しいエルサレムが天から降って来て、わたしたちがそこに住むようになる、というメッセージでもって閉じられています。このように言われています。

「さて、最後の七つの災いの満ちた七つの鉢を持つ七人の天使がいたが、その中の一人が来て、わたしに語りかけてこう言った。「ここへ来なさい。小羊の妻である花嫁を見せてあげよう」　この天使が、"霊"に満たされたわたしを大きな高い山に連れて行き、聖なる都エルサレムが神のもとを離れて、天から下って来るのを見せた。都は神の栄光に輝いていた」（黙示録 21:9-11）

「わたしはまた、新しい天と新しい地とを見た。最初の天と最初の地は去って行き、もはや海もなくなった。更にわたしは、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意を整えて、神のもとを離れ、天から下って来るのを見た。そのとき、わたしは玉座から語りかける大きな声を聞いた。「見よ、神の幕屋が人の間にあって、神が人と共に住み、人は神の民となる。神自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初のものは過ぎ去ったからである」（黙示録 21:1-4）

わたしたちは今日、地上の都で生活しています。しかし、地上の都はやがて過ぎ去って行くものであることを、おぼえましょう。そして、主イエスキリストを通して与えられるまことの神との結びつきこそが、わたしたちにとって本質的に重要なものであることを、心にしっかりとおぼえましょう。わたしたちは今日、信仰と希望と愛にしっかり立ちながら、天の都が到来するのを待ち望んでいます。それが、「御国が来ますように」という、わたしたちの祈りであります。主イエスキリストを通して与えられる神と結びつきは、祈りによって表現され、祈りによって深められます。それが、「イエスの御名によって祈ります」という、わたしたちの祈りであります。わたしたちは今日、地上の都にあって、天の都の到来を待ち望みつつ、祈りましょう。そうするならば、わたしたちは、この過ぎ去り行く地上の都にあっても、自分のいる場所を「祈りの家」としつつ、生活することができるのです。

祈り

天の父なる神様。災害や戦争によって多くの地上の都が滅び去って行きました。わたしたちは、それら滅び去った都の記憶を、悲しみと痛みをもって思い起こしております。

滅び去って行った都のことを考えるとき、わたしたちが日々の生活の中で頼りとしている物質的な基盤や、精神的な基盤すら、やがて消えてなくなってしまう時が来るのだ、ということを考えさせられます。

どうかわたしたちが、過ぎ去らないもの、永遠になくならないもの、いつまでも存続するもの、わたしたちにとって本質的に重要なものが何であるかを、みつめ直すことが出来ますように。

わたしたちは今日、主イエスキリストを通して与えられる神との結びつきこそが、永遠に存続するものであり、たとえ地上の都が過ぎ去ったとしても、信仰と希望と愛はいつまでも残るということを、聞きました。

どうかわたしたちが、信仰と希望と愛にしっかりと立って、生きることが出来ますように。どうかわたしたちが、過ぎ去り行く地上の都を後にして、体をまっすぐ天の都、新しいエルサレムに向け、前に進んで行くことが出来ますように。

そうして、「御国が来ますように」という祈りを「主イエスキリストのお名前を通しておささげする」ことにより、自分と神との心の結びつきを深めて行くことが出来ますように。

わたしたちは今日、地上の都の中で生活していますが、天の都の到来を待ち望みつつ祈ることによって、自分のいる場所を「祈りの家」としながら、生活することができますように。どうかお導きください。

わたしたちの主イエスキリストの御名を通してお祈りいたします。
アーメン